

会議資料	別紙のとおり
傍聴人の数	0人
備考	

会議の概要（主な発言等）	
1	開会
2	自己紹介
3	<p>座長の選任</p> <ul style="list-style-type: none"> 事務局案のとおり、佐渡連合商工会事務局長を座長とすることで承認を得た。
4	<p>議題1）国脱炭素政策及び佐渡市脱炭素先行事業の概要説明</p> <ul style="list-style-type: none"> 事務局より説明。 <p>議題2）佐渡市脱炭素推進会議の概要説明</p> <ul style="list-style-type: none"> 事務局より説明。 <p>意見交換等）</p> <ul style="list-style-type: none"> エネルギー消費は様々な分野で行われており、脱炭素に向けては皆様の行動変容が必要となる。また、島内での経済循環に必要なことは、再生可能エネルギーの大量導入であり、是が非でも取り組まなければならない事項である。脱炭素化の取組推進にあたり多くの民間企業に参画していただきながら、必要な設備投資等も行っていただけるようになると良いと考えている。取組の推進に当たり、市や関係者等と日々やり取りをしながら進められるようお願いしたい。 様々な場面で参画をしたい。環境関連だけでなく、SDGs等もある。様々な事業の組み合わせについても想定をして良いものか。会社の取組として、バイオマス等にも取り組んでいる。また、EV事業やソーラーシェアなど、県外事業者も含めて紹介等も可能である。 情報共有し、上手く組み合わせできるようにできれば良いと考えている。 弊社は再エネ発電の発電所建設・運営を実施してきた会社である。再エネ導入の取組は、地域の中で運営体が組成され、そこが将来的に継続して運営していけるような形を目指していくべきであると考えている。地域で運営ができるような基盤づくりも合わせて取り組んでいるため、事例についても改めて紹介させていただくことは可能である。 弊社は太陽光パネルを設置し、再エネで酒造りをしている。酒造りの原料は全て佐渡のもので、島内で生産・製造した商品を島外で販売していきたいという想いで取り組ん

でいる。地域経済の活性化を目指していくための1つとして再エネ導入があると考えている。ブランド化という面でも、脱炭素化の取組推進と対外的な発信の両面で進めていくべきである。

- ・旅行者より再エネを使った電気供給がされていない施設は利用を控えたいといった意見も出てきている。脱炭素化に関しては、再エネ導入だけではなく、儲かる仕組みも考える必要がある。

- ・脱炭素化に向け、発電量の増加、防災機能の向上、循環型としていくのか、どこを目的とするのか気になっている。民間や個人レベルでは、どのように再エネ導入を進めていくのが課題になると考えている。地域新電力設立には東北電力ネットワークとの調整が必要となる。

- ・太陽光は不安定電力であり、今ある火力発電との連携は不可欠となる。関東地方では、この暑さで電力使用制限という話も出てきている。いかにそれを実践していくのが課題と考える。